

緑爽会会報 No. 149

2017年4月25日発行
日本山岳会 緑爽会
発行人 富澤克禮



デザイン・制作 関塚貞亨

〜〜 《報告》 〜〜

2017年度緑爽会総会

開催日：4月1日（土）出席25名

出席者：梨羽時春、松本恒廣、関塚貞亨、吉田理一、里見清子、渡部温子、川嶋新太郎、平野紀子、鳥橋祥子、大島洋子、島田稔、小清水敏昌、富澤克禮、夏原寿一、瀬戸英隆、田井具世、川口章子、渡邊貞信、西谷隆亘、近藤雅幸、石塚嘉一、中村好至恵、荒井正人、横関邦子、小林敏博

4月1日緑爽会総会が開催された。富澤代表の進行で始まり下記第1・3号議案については夏原副代表から、第2・4号議案については瀬戸会計から説明があり、いずれも承認された。また第5号議案に関しては富澤代表から主旨説明があり承認された。

- 第1号議案 2016年度 事業報告承認の件
- 第2号議案 2016年度 収支決算承認の件
- 第3号議案 2017年度 事業計画（案）承認の件
- 第4号議案 2017年度 予算（案）承認の件
- 第5号議案 緑爽会規約改定の件

（これは総会開催時期を「事業年度終了後2か月以内に開催する」と改定するもので、実態に則して開催時期を明確化した。これに伴い「事業年度」についても「4月1日から翌年の3月31日までとする」と明確にしたものである）

議事終了後、横関会員からパワーポイントを使って「アメリカの国立公園を訪ねて」と「スリランカ大周遊」の講演があった。この内容は次号に掲載します。（報告/写真：荒井正人）



近況報告 (総会出欠ハガキに書いていただいた近況です。出席の方の分も掲載しています)

- 田邊壽: 会報の緑さんの「二人者」に思うことの通りの心の中のゆらぎのままに。元気になりました。4月1日は横断研の会合で仙台へ行くので欠席します。
- 芳賀孝郎: JAC 北海道支部の仲間と共に山スキーを楽しんでいます。迷惑をかけないよう心掛けています。
- 山本良子: 残念ですが先約が入っており欠席いたします。3月20日～22日、裏磐梯に雪遊びに出かける予定です。会費は3月17日に別途送金いたしました。2017年もよろしくお祈りいたします。
- 五十嶋一晃: 幹事の皆様ご苦勞様です。総会、年中行事特異性があります。拙著『立山ガイド史Ⅱ』制作中(4月末発行予定 約800頁)。今年に入り、まじめに腰痛のリハビリに努力しております。
- 梨羽時春: 先日、シルバー人材センターの自転車置き場で転倒、未だ歩行にダメージです。
- 松本恒廣: 会務ご苦勞様です。当日はよろしく
- 佐藤淳志: 今年の総会も欠席で失礼します。盛會を祈念しております。
- 近藤緑: まだ歩けずリハビリ生活を続けております。過日は投稿原稿を載せていただき有難うございました。ご盛會を祈ります。
- 関塚貞亨: 3月に92歳になり、足も弱り心臓の一部も死に、坂をのぼるのも苦しくなりました。まったく情けない! 何ごとにも起動が遅くなり、頭の中ではいろいろの話題や物語がうずまいてるのに原稿としてパソコンに向かう気力がなかなか出てきません。『山岳』に吉田博のことを書きたいのですが、間に合うかどうかは不明です。
- 吉田理一: 5月の研修レポートの提出、6月の尾瀬現地宿泊研修を経て、7月尾瀬保護財団ボランティア登録を目指しています。
- 里見清子: 甲府周辺の仲間と毎月1回近県の旅を続けています。企画を楽しみ頭の回転頑張っています。
- 川嶋新太郎: 昨年末、体調を崩しました。何とか回復に努力していますが、なかなか!
- 高辻謙輔: 今年の総会も欠席で失礼します。盛會を祈念しております。
- 平野紀子: 昨日は「観梅山行」大変お世話になり、いつも田井さんと2人御迷惑をおかけし申し訳ありません。高崎より順調に戻ったのですが、置いておいた車がエンジンかからず、地元のバスの運転手さんに手伝ってもらいやっと帰って来ました。皆様のパワーには負けました。
- 森武昭: 一度も会合に出席できず申しわけありません。4月からは多少時間がとれる見通しですので、皆様との再會を楽しみにしています。
- 奥野道治: 癌手術後、自宅(娘宅)養生しておりますが、元気が出ません。頑張ろうと思っています。
- 滝沢ちよ子: 今年度末で退會します。
- 大島洋子: 遅くなって申し訳ありません。
- 長沢洋: 冬眠しております。
- 山川陽一: すみません。多忙にて参加できそうにありません。皆様によろしくお伝え下さい。
- 尾野益大: 申し訳ありません。この日が盛會でありますように祈念しています。4月8日に小島烏水祭を開きます。早いもので第5回目です。烏水に氷河研究のきっかけを与えた山崎直方のお孫様をお迎えします。
- 樋口みな子: 会報をいつもありがとうございます。いつか例会にも参加してみたいと思っています。私は今、個人通信「銀河通信」200号の編集中です。4月は200号を祝う会があります。
- 鎌倉淑子: 当日は来客予定のため欠席します。会報で近藤緑さんの文章を読みました。私は今年2月、宝台樹スキー場でスキーをしましたが3本でへばり。長年使用したスキー靴がこわれました(経年劣化?)。年貢の納めどきかと思っています。

- 深田森太郎： お世話になっております。愚生3月は体調不良と雑事に追われ緑爽会総会の出欠ご返信をすっかり失念しており誠に失礼致しました。ご無礼の程どうかご寛恕ください。扨、明後日の総会ですが、毎月第一土曜日の定例会合と重なっており、残念ですが出席できません。ご盛会をお祈り致すと共に、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。
- 小泉義彦： 先約がありました。残念です。
- 西谷可江： 平素は大変お世話になりまして有難うございます。1月、インフルエンザに罹り10日間寝込みましたが、“齢をとるといふこと”を痛感しました。温かくなりましたら、ほどほどの山歩きをたのしみ、自然からエネルギーをもらいたいと思っています。
- 近藤雅幸： 4月1日は前から決まっていた山の予定があり、残念ながら出席できません。皆さんとはごぶさたいたしていますが6月は山行を計画しますので、それに免じてどうかご容赦ください
- 中村好至恵： いつもお世話になって居ります。
- 三枝海枝： いつも出席することが出来ずに残念です。庭や畑にも暖かくなると共に草々が芽を出し始めて、日々落ち着きがなくなります。又年度末も重なり日程がとれません。
- 横関邦子： 「アメリカ国立公園」と「スリランカ」の資料作成中です。頑張らなくてはというところです。
- 藤下美穂子： 楽しく仕事に励んでいます。5月半ばまでは、山(と)は遠くに。
- 小原茂延： 寒の時期、肺炎気味で休養していましたが、やっと回復しました。4/1は先約で中村純二先生の講演会(丹沢)のため欠席致します。
- 小林敏博： 入会早々なのに総会欠席、申し訳ございません。4/1はすでに山行予定があり失礼いたします。今後ともよろしくお願ひいたします。

2月例会<講演会>

神崎忠男会員による講演

「ネパールでのマナスル登頂60周年式典とトレッキング」

開催日：2月10日(金)

参加者(15名)：田村佐喜子、松本恒廣、里見清子、鳥橋祥子、大島洋子、島田稔、小清水敏昌、富澤克禮、夏原寿一、瀬戸英隆、川口章子、渡邊貞信、小泉義彦、荒井正人(以上緑爽会々員)、今田明子

2月例会は、標記演題で神崎忠男会員から映像と資料に基づく講演をいただいた。まずトレッキングの映像が写されたが、これには富澤代表、川口さんも参加されておられ、神崎会員のウィットに富むご自身の声によるナレーションとともに大変楽しませていただけた。式典及びパレードの映像はネパールと日本の深い繋がり、歴史を感じさせるものだった。

続いて30ページ以上に及ぶ資料に基づいて話をされたが、限られた時間では全てについて語ることはできない。それでも常に日本の登山界のことを考えて精力的にかかわってこられた神崎会員の情熱を感じることができる充実した内容であり、新しい若い会員に是非とも聞いて欲しいと感じた。



(報告：荒井正人)

写真：熱弁する神崎会員

神崎さんのお話を聞いて

小清水敏昌

山陰地方は大雪との報道がされている中、2月の例会が10日午後2時から始まった。演者はわれわれのなかでもよく知られている神崎忠男氏。内容は二つの動画上映による、昨年4月にネパールで行われた「マナスル登頂60周年記念式典」及びそれに関連した少人数の「ネパール・ツアー」の報告。続いて、演者が作成した30頁を超える資料を基にした講演。

最初の動画は「お爺ちゃん・お婆ちゃんのネパールの旅」と題し、一行が2015年4月の地震後のカトマンズ市内を見学する様子や、崩壊したお寺などが映し出されたのを見ると復旧の遅れが感じられる映像であった。次の場面はゾウに乗ってのジャングルサファリや急流下りなど。何人かの顔見知りの緑爽会のメンバーが揺れるゾウの上で必死に台座に掴まっている姿に皆さんも思わずニヤリ。2本目の動画は「マナスル登頂60周年記念会」。大勢のグループが次々現れるパレードやネパール山岳協会主催のレセプションなどの様子が映し出された。また、パーティではネパールの女性大統領出席の許、日本山岳会小林会長が地震復興への義援金の授与の様子なども上映された。

動画終了後、直ちに神崎氏の講演に入った。配布された資料の表紙には、私の登山サロン、登山の歴史から日本山岳会を考える、の記載があり、大きな文字で「山を讃え、山を究める」と。演者が訴えたいことを凝縮した題名である。資料には、明治時代に数人の人たちから日本山岳会が組織化されていった歴史を始め、マッターホルン登頂の裏話などや海外の登山団体と日本の山岳界との関連までもが分り易く纏められ、それを基に解説。氏は日本山岳会副会長を経て日本山岳協会の会長を務められた。その間の国際山岳連盟やアジア山岳連盟との関わり合いの秘話？も話され、わが国と海外登山団体との繋がりから これからの日本山岳会のあり方にまで言及した。更に、最近の山岳会の役員のなかでも、昔の創設期頃の人物の名前や周辺の有名な出来事をも知らない人が増えてきて嘆かわしいと。100年以上続く本会の歴史にもっと関心を持つべきと感じた。配布された資料の内容を精読するだけでも、わが国における山岳活動全般がよく理解できるように編集されている。

組織を継続させるためには、過去の歴史と関わった先人の足跡に思いを致し、若い世代に引き継いで行くことが非常に重要だとつくづく思った。今年77歳を迎えた演者の山岳会運営や登山活動の熱い想いが強く感じられる講演だった。



(写真:小泉義彦)

3月山行<観梅山行>

夏原寿一

3月の山行はどこにしようかと考えているところへ富澤さんから「榛名梅林では…」との電話をいただいた。この案は馴染みのない地域だったので、とても新鮮に感じられて、即賛成した。

コースは当初、二等三角点のある標高373.7mの無名峰から、標高352mの浅間山を通る尾根筋を歩くことにしたが、そこを歩いたことのある富澤さんは「ヤブが心配」ということで念のために

と実踏して下さった。その結果、ヤブが以前よりひどくなって道がなくなっているとのことでコースを変更、梅林の中を歩くことにした。

登山口にある榛名文化会館・エコールは当日、参加者 3000 名の「はるな梅マラソン」のスタート地点ということで大賑わい。その人込みを分けて、いざ出発。歩き始めるとすぐに梅の林に入る。林といっても樹高が低いので空が広くて気持ちがいい。梅は満開だ。ここの梅林は梅の生産農家の梅林で、高みから眺めると、なだらかな起伏の丘は全て梅の木だ。しばらく行くと梅見が丘公園。そこに梅干しの無人販売があって「1パック 500 円 無添加」とある。地元産ということで皆さんと共に買い求めた。

コースにはマラソンランナーと並行するところもあったが、トップグループは既に通り過ぎているので、後続組は私たちが歩くより少し早いぐらいのスピード。お互い「ガンバって〜」などと声を掛け合いながらのんびり歩く。

さて、浅間山へは梅林のコースからヤブの斜面を登らなければならない。進めそうな踏み跡を見つけてヤブに入る。結構な急斜面だ。滑りそうになって木を掴もうとすると、それはタラノ木！ご存知トゲがあるので握れず、幹を指先でつまんでバランスをとる。前の方から聞こえてくる「ヤブは久しぶりだな」とか「手袋を持ってくればよかった」などの声を耳にしながらか 50mほど登ると林道に出た。

この林道をしばらく進んで浅間山への道に入る。途中で 135 段の、しかも一段の高さの高い石段！これを登ると東屋があって、すぐ上が頂上だ。浅間神社がある。お詣りして裏に回ると、そこは開けていて眺めが良い。赤城、榛名、妙義、浅間が目の前に、谷川、上州武尊、八ヶ岳、特徴のある姿の荒船等の山々が春霞の向うに見える。そして下界には烏川や北陸新幹線――烏川の鉄橋を渡る音がよく聞こえるほどの近さだ。この景色を堪能しながら、昼食をとった。

下山した下里見には富澤さんの生家があり、弟さんが養鶏業を営んでおられる。そこで、卵や卵を使ったケーキなど、沢山のお土産を頂戴した。富澤さんは「心配しないで」とおっしゃって下さったが、それはそれはありがたいことであった。

快晴無風。広々とした梅林の見事さを満喫できたし、ヤブ漕ぎなどの変化もあったし、楽しめた山行だった。

・実施日：3月12日（日）

・コースタイム：高崎駅→エコール（10：15）→梅見公園（10：30-50）→浅間山（11：55-12：45）→里見城址（13：30-35）→城山稻荷（13：40-50）→下里見（13：55）→高崎駅



（写真：夏原寿一）

・参加者：13名 写真左から（梅見が丘公園にて）

後列：大島洋子、中村好至恵、横関邦子、平野紀子、小清水敏昌、渡邊貞信（手前）、富澤克禮(L)、夏原寿一(SL)

前列：荒井正人、渡部温子、田井具世、瀬戸英隆、松本恒廣

童心にかえった観梅山行

平野紀子

上毛カルタに「白衣観音慈悲の御手」と詠われる高崎の観音様(昭和11年築。高さ41メートル、重さ5.9トン)。その群馬県人の誇りを横目に一路梅見へ。ナント高揚したランナーが溢れる今日は梅見マラソン。熱気の中、一步一步広大な白梅の林に入り、渡部さん特製コーヒーに大感謝。浅間山に向う田舎道が徐々に高度をあげ、突如“秘密のショートカット”。昔々のガキ達一行クリア。天空に垂直に見上げる程の石段を登りあげ。浅間神社。眼下の景色“最高”。下って原っぱの里見の城址。真っ赤な大鳥居の城山稲荷。終着は富澤さんの育った家。うだつの上があった豪農か庄屋の家の風情。(今は弟さんが「卯太郎」を経営)人気スポットとなつて、お目当ての卵とスイーツに人だかり。中に入る余地なし。ここで富澤さんよりのおみやげを沢山いただき、黄門様〜ズ、助さん、格さん、女子会、キャーの歓声。

～～《寄稿/投稿》～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

弥彦山と高頭祭

高辻謙輔

越後平野の西端、日本海を背にして南から北に連なる国上山、弥彦山、角田山の三山は、旧西蒲原郡の二町三村にあることから「西蒲三山」といわれる。昭和50年、三重国体山岳競技の県予選会を実施するにあたり、稜線上の藪を伐開して三山が登山道で結ばれた。

近年は直線距離で17km余、全行程約12時間の縦走路に挑戦する登山者も増えている。雪がとけると、一帯は雪割草とよばれるオオミスミソウやカタクリにおおわれ、全国から多くの人々が訪れる。

三山の中で最も標高の高い弥彦山は双耳峰で、北峰の多宝山634mに一等三角点本点(点名・弥彦山)と天測点がある。南峰の弥彦山頂には弥彦神社の祭神、天香山命(あめのかごやまのみこと)が鎮座する御神廟があるため、三角点が設置されなかった。これまで標高は御神廟内の頂点638mであったが、現在は航空測量で測量地点が変わったため、634mとなっている。

双耳峰の中間地点、大平山の園地に日本山岳会創立発起人の一人で第2代会長高頭仁兵衛翁の寿像碑がある。碑は戦後間もない昭和25年7月2日、御神廟のある弥彦山頂に建立された。碑面には文展審査員羽下修三製作になる上半身浮き彫りの銅板と、日本山岳会会長武田久吉による頌徳文の銅板がはめ込まれた。竣工式を行ったこの日をもって第1回高頭祭となし、今日に至る。

昭和35年、寿像碑は大平山の園地に移築され、その年5月15日の高頭祭でその竣工除幕式が行われた。この時、名誉会員冠松次郎が来賓として招待されている。

高頭家は貴族院議員互選資格を持つ多額納税者で、三島郡深才村深沢(現長岡市深沢町)の大地主。日本山岳会創立発起人7人のうちで唯一の地方人だった。高頭仁兵衛の、会運営に対する貢献についてはあらためて述べるまでもない。長岡市深沢町の邸跡は河内公園(河内は高頭家の家号)となり、園内には郷土の産業、経済、文化など各方面の発展に尽力した高頭仁兵衛の徳を讃えた、石黒忠篤の筆になる頌徳碑が建立されている。また奥津城は近くの正林寺にある。

ところで、弥彦神社の夏祭り「灯籠神事」の協賛として弥彦山頂から松明をかかげて下り、弥彦神社に参拝して町中を行進する行事が松明登山祭という名で行われたのは昭和29年7月13日である。

その後、松明登山祭と高頭祭は一体となり、弥彦山頂で「新潟県登山祭」として開催されてきたが、昭和35年5月15日に碑が大平園地に移築されて以降、高頭祭は大平園地で、新潟県登山祭は弥彦山頂で開催されるようになった。そして昭和48年から2つの行事は毎年7月25日に同時開催されることになり、今に至っている。また、2つの行事は平成28年から「にいがた山の日」のメイン行事となった。

昭和25年に寿像碑が建立されて以降、高頭祭や松明登山祭に招かれた日本山岳会の要人をあげてみ

ると、前記の冠松次郎ほか松方三郎、山崎安治、三田幸夫、折井健一、板倉勝正、金坂一郎、坂倉登喜子、渡辺公平、浜野正男、榎有恒、加藤泰安、日高信六郎、沼倉寛二郎、中村謙、深田久弥、成瀬岩雄、吉沢一郎、佐々保雄、西堀栄三郎等々、多くの顔ぶれで、それは今に続いている。

高頭祭は今年で 60 回を迎えることになった(昭和 25 年から数えると回数が合わないのは、初期に開催しない年もあったからである)。今年の 7 月 25 日には是非多くの方々から弥彦山を訪れて、日本山岳会を創立した先達をしので頂きたいと願っている。

なお、高頭仁兵衛の名を「じんべえ」と呼ぶ人が多いが、正しくは「にへえ」であることを付記しておきたい。



高頭仁兵衛の頌徳碑（長岡市深沢町河内公園）



高頭祭で講演する近藤信行氏（2009. 7. 25）

山名の呼称について

関塚貞亨

まず山ではないが、小島烏水と岡野金次郎の 2 人が泊まった白骨温泉の呼び名は「しらほね」と呼んでいるようだが、私が昭和 19 年 8 月に初めて上高地を訪れた当時は「しらふね」と読むように聞いた。地元の人はいまどのように呼んでいるのであろう。

さて山の名前である。後立山連峰の山々、現在「白馬岳」と呼んでいる山は本来「大蓮華岳」と呼ばれていた。ウェストンもそのように著書の中で呼んでいるし、深田久弥も著書「百名山」の中で本来は大蓮華岳と呼ばれていたと書いている。

白馬岳「しろうまだけ」と呼ばれるようになったのは、陸地測量部の測量官が案内の人夫に山名を聞いたところ、「しろうま」と答えたという。人夫は大池近くの山に 4 月の終わりから 5 月初旬にお盆に飾る藁の馬のような雪形が現われ、麓の農家は、それを「代掻き馬」あるいは「代馬」と見立てて、田圃に水を張って苗代を作る目安としたのを知っていたが、本来の「大蓮華岳」を知らなかったで、とっさに「代馬」と答えたのを測量官は「白馬」と書きいれたのである。その後、信濃四谷駅は「白馬駅」と改名され「はくば」とルビを振られて、白馬尻は「はくばじり」、雪渓も頂上小屋も通称は「はくば」と呼ばれるようになった。NHK も百名山番組で当初は「はくばだけ」と呼んでいたが、その後注意されたのだろう。「しろうまだけ」と呼ぶようになったのは結構なことである。私もいまさら本来の「大蓮華岳」に戻るようには主張する気はない。

次は五竜岳という呼び名のこと、この山の頂上近くに甲斐武田の紋所である武田菱のような雪形が現われるので「御菱岳・ごりょう」と呼ばれていたという。この山に登った中村清太郎が「五竜岳」と登山記録を書いたのが、始まりだという。

大正の初めまで水晶が取れたことに由来する「水晶岳」の別名は黒岳という名もあった。南アルプスの悪沢岳の別名は東岳だが、早期会員の荻野音松が命名した悪沢岳が国土地理院の地図に記載されて正式名称として呼ばれるようになったのは喜ばしいことである。

北アルプスに戻れば常念山脈の大天井岳の本来の呼び名は「おてんしょう」である。近くの山小屋が「大天荘」で山の名も「だいてんじょうだけ」と呼ぶ人もいるようだが、私は「おてんしょう」が好きである。常念坊が常念岳になったのは自然なことであまり抵抗感はない。

～～《予告など》～～

5月山行: 5月13日(土) 箱根「明星ヶ岳から宮城野へ」(担当:荒井正人)

集合: 9:00 JR 小田原駅内の大雄山線乗り継ぎ改札

行程: 9:12大雄山線で大雄山駅へ(9:33着) 9:50のバスで登山口の道了尊→約3時間で明神ヶ岳山頂(展望と昼食)→約2時間で宮城野(下山15:30頃)→バスにて湯本か小田原に出て解散とします。(希望ある方は入浴)皆さんご存知のルート。天気に恵まれれば富士山を眺めながら歩けます。参加希望者は前々日までに荒井携帯にご連絡ください。通常の日帰り山行の装備でお願いします。入浴したい方はその準備も。



6月山行: 6月10日(土) 【総会時から実施日が変更になりましたのでご注意ください】

皆野アルプス「破風山(はっふさん)」(担当:近藤雅幸)

集合: 9:20 秩父鉄道「皆野駅」改札外

行程: 皆野駅→大淵登山口→約2時間半で破風山山頂(昼食)→約1時間10分で秩父札所三十四番水潜寺(解散)→(バス)→皆野駅
取り付きだけは急ですが、それが落ち着いてくるとあとは登りやすい花のある道が続きます。破風山は素晴らしい展望ポイント。巡礼古道を下り秩父札所の結願寺「水潜寺」へ。花と展望と歴史を楽しむ山旅です。奮ってご参加ください。参加希望者は前日夜までに近藤へ

7月例会: 暑気払い 7月15日(土) 午後2時～ 場所:集会室

島田稔会員によるお話し「高尾山のサポレン(サポート・レンジャー)について」。

一名簿の充実に向けてー

新しい名簿をお届けしましたが、今後の連絡を考えたとき「携帯電話番号」「(PCの)メール・アドレス」があると便利です。つきましては、差し支えない範囲でお知らせいただきたく、よろしく申し上げます。

・連絡先:夏原寿一

<その他お知らせ>

- ・新年度会費については148号でお知らせした方法にて納入願います。
- ・前号でお知らせした新入会員・小林敏博さんの住所が間違っていました。名簿が正当です。訂正してお詫びいたします。

―― 編集後記 ―――

総会の議事終了後、松本さんからお知らせがあった。それは現在「緑爽会の20年史」を作成していて、暑気払いにはお手元に届けたい、ということであった。会の歩みが一目瞭然となることは会員には嬉しく誇りに感じられるものであると確信する。その発想と作業に敬意を表したい。そんな歴史のある会の会報担当としては身の引き締まる思いであり、継承していく責任を感じる。(荒井正人)

<次号予告>6月26日発行の主な内容

- 報告: 5・6月山行報告、横関邦子会員の「スリランカ大周遊」
- 寄稿・投稿: 佐藤淳志会員「鳥海山麓からの便り」

カット:中村好至恵